

KUROSHIO

March 2022 Volume 47



鹿児島県立短期大学
地域研究所

■ 巻頭言			
若年人口の流出を防ぐために	学長	塩地 洋	1
■ 退任の挨拶			
退任挨拶	生活科学科	亀井 勇統	2
退任の御挨拶	文学科	望月 正道	2
■ 新任の挨拶			
新任の挨拶	商経学科	岩上 敏秀	3
新任のご挨拶	生活科学科	田邊しずか	3
新任の挨拶	商経学科	近間 由幸	4
■ 学外活動の報告			4
■ 生涯学習の取り組み			
2021年度 鹿児島県立短期大学 公開講座			
「ニューノーマルで豊かな生活」	文学科	小林 朋子	5
2021年度 伊敷公民館講座 生き生きシニア大学	文学科	小林 朋子	8
■ 地域研究報告 2021年度プロジェクト研究			
<共同研究プロジェクト>			
新型コロナ支援融資等を受けた鹿児島県内中小企業の調査	商経学科	宗田 健一	10
<個人プロジェクト>			
奄美大島・泥染めによる美術作品の制作	生活科学科	北 一浩	10
事業継承を行う中小企業における管理会計導入要因の分析	商経学科	宗田 健一	11
障害児の高校進学のための全国的な状況	商経学科	田口 康明	11
日本近代における南方への想像力の研究-屋久島を中心として	文学科	竹本 寛秋	12
■ 研究・社会活動報告			
2021年度 鹿児島県立短期大学教員 研究社会活動実績一覧			13

■ 巻頭言

若年人口の流出を防ぐために 学長 塩地 洋

鹿児島県人口の社会減の最大の要因は18歳人口の社会減である

鹿児島県の人口の社会動態における最大の特徴の一つは、18歳人口の転出が転入を大きく上回っていることである。その結果として18歳人口の社会減（転出と転入の差）が大きいことである。2019年の鹿児島県全体の人口の社会減はおおよそ4,000人（転出3万1,000人、転入2万7,000人）であるが、18歳人口の社会減は2,754人となっている。この数値は47都道府県で第一位である。また県全体の社会減4,000人の7割程度を占めている。鹿児島県人口の社会減の最大の要因は18歳人口の社会減であると断定できる。

年代別の人口の転入/転出のグラフを書くと、鹿児島県では18歳～22歳の人口帯における社会減がきわめてめだっている。他の年代においては大きな変化はみられず、55歳～65歳の社会増がわずかにみられる程度である。その年齢層の社会増は他県で定年退職をむかえた人々が退職後に鹿児島に戻ってきていることから生じている。

18歳人口の社会減は、高校生の県外大学への進学者数と県外企業への就職者数が大きい故

鹿児島県の18歳人口の2,754人の社会減は、転出4,500人程度と転入1,800人程度の差から生まれていると推計している。ではこの18歳人口の社会減を生みだした要因は何か。それは県内高校卒業生の県外大学への進学者数と県外企業等への就職者数が大きいことである。2019年3月に高校を卒業した1万4,607名の内、約3,000人が県外大学等へ進学（転出）している。この原因の一つは鹿児島県に県立の四年制の大学が存在しないからである。県民1万人当りの公立大学学生数は、福岡県では17.1人であるのに対して、鹿児島県は3.5人しかいない。この人口当り公立大学学生数では鹿児島県は九州で6番目となっている。鹿児島の高校生は「県内の公立大学に進学する教育機会」が福岡の高校生の5分の1しかないのである。この点においては教育の機会均等が十分に保障されているとは言えないのである。

県短の四年制大学化は鹿児島県の若年人口の他県への流出をくいとめる役割を果たす

県短の近くにある高校では鹿児島大学に50人程度、県短には30人程度入学しているが、40人程度は九州にある県外の四年制国公立大に入学している。国公立の四年制大学を希望する高校生にとって鹿児島大学が学力的にすこし難しい場合、県内に受験する大学が存在しないのである。高校の進路指導の先生は泣く泣く他県の四年制国公立大学を勧めざるをえないという。優秀な高校生が県外に流出しているのである。

県短と県外の四年制国公立大学が併願となり、ともに合格した場合も、県短が四年制でないことから敬遠され、県外の四年制国公立大学に流れることがよくみられるという。県短が四年制大学になると、そうした敬遠は確実に減ることは明白である。校長先生や進路指導の先生からも「もし県短が四年制大学であったら、40人の県外流出の大半は県短に進学する。県短の受験生は3倍に増える」と言われた。県短の四年制大学化は鹿児島県の高校生の県外流失をふせぎ、若年人口層を増大させることにつながることは明白である。

高校生を県内にとどめれば、県民所得の増大と県の財政収入の増大につながる

さらに加えて他県の国公立大に流出していた高校生を県立大学にとどめることができれば、他県に支払われていた授業料や交付税交付金、学生の消費が鹿児島県内に戻ってくることを意味する。それらの結果、私の推計では13億円前後の県民所得の増大につながる。こうした県民所得の増大は、県の財政収入の増大につながることは明らかである。正確な係数は知らないが、この13億円の県民所得の増大の、仮に10%が県の財政収入の増大につながれば、その財政収入の増大分を県短の四大化にまわすことも可能となる。

■ 退任の挨拶

退任挨拶 生活科学科 亀井 勇統

まだこのあいだ、新任の自己紹介を書いた記憶がありますのに、今このように退任の挨拶を書いているのは不思議な気持ちです。前任の佐賀大学から2016年の10月1日付けで着任以来5年と余月、正直、時間が過ぎるのが実に早かったと感じます。県短着任後は食物栄養専攻では卒業論文の発表がないこともあって、今までとは仕事の内容が大きく変化したことに戸惑いを覚えました。前任時代は配属された学部4年生と大学院学生に対して、正規の期間内で卒業あるいは修了させるために力を注いで参りましたが、食物栄養専攻では実験研究に携わる学生がいないことから、仕事内容が授業を中心とした教育に特化していました。県短に来て最も驚いたことは、前後期末に行われる学生の授業に対するアンケートの評価がかなりの重みをおいてなされることです。通常、大学院大学では教育よりも研究を重視するきらいがあり、多くの教員はアンケートの結果内容には目を向けません。むしろ、その年度にどれだけの論文が著名な学術雑誌に掲載されたかに興味が集まります。私はこれまで約150編もの論文を発表して来ましたが、県短に来てからはゼロです。退任するにあたり、この点、すごく反省しております。言い訳させていただければ、前後期の授業8科目で手が一杯でしたし、この4年間は管理職の業務も加わり、実験を開始しても中断、また開始してもまた中断の繰り返しでした。反省です。あと2年くらいあれば、実験研究して論文の1,2報くらい書きたかったのですが時間切れでした。なんだか退任の挨拶がネガティブな内容になってしまいましたが、もちろん県短で得た楽しかった思い出もあります。各年度の春秋の体育祭参加、2017年度と2018年度のハワイ研修、2018年度と2021年度の浴衣デーでの浴衣を着ての講義、2018年度と2019年度の県短祭での学生との奄美島唄披露、2021年度の文化祭(宝山ホール)での食栄専攻映像作品への特別出演がそうです。

県短の四大化構想が今後どのように発展していくかが注目されますが、ぜひ実現してほしいと願い、県短の発展を遠くから見守っていきます。お世話になりました。皆さま、お元気で、さようなら。

退任の御挨拶 文学科 望月 正道

鹿児島県の県立短大が近々四年制になるから…という話を聞いてやって来てから三十余年、初めの頃は、開学記念日もちゃんと休講していたし、前期試験は夏休み明けてからだったし、学祭では学生がおみこし担いで街に繰り出していたし、ずいぶんと長閑だった気がします。

その後は8・6豪雨や桜島の噴火が活発な時期もあったものの、やはりのんびりとあまり研究にも精を出さずに来てしまいました。

ゼミでは、学生と一緒に天草本平家物語を読んだり、奄美の島唄を聞いたり、捷解新語(朝鮮王朝時代の日本語教科書)を読んだり、歴史的音源の落語や演説を聞いたり、楽しい日々でした。ゼミ旅行では与論島やソウルにも行きました(9/11のニュースをソウルの宿のTVで見たのは忘れられません)。

最近では、少しハングルが読めるようになったので(文字として読めるだけで話せませんが)街の観光案内板の間違いが目につくようになり、昨年の公開講座と今年の第二部人間と文化でそのあたりの話をさせていただきました。そこでも触れた高麗橋そばの「維新ふるさとの道」入口の案内板、鹿児島市にもお知らせしていたのになかなか直らなかったのが、昨日(12月9日)改めて確認したところシールで修正されていたので、ささやかながら地域還元できたような気がします。

さて、もうすぐ定年で退職し、県短とのつながりもなくなるような気がしていましたが、息子が第二部を卒業して県短が母校となっております。まだまだご縁があるかも知れません。皆様ありがとうございました。

■ 新任の挨拶

新任の挨拶 商経学科 岩上 敏秀

金融業界で約30年仕事をしてきた実務家教員として、2021年4月に着任しました。経歴を簡単に振り返ります。大学卒業後、1987年に都市銀行（現在のメガバンク）に入行、法人営業や人事、企画業務を中心に約20年間勤務しました。2006年に外資系に転じ、米系証券会社や欧州系銀行などで約10年間勤務しました。会社員生活の中で思い出深い経験を2つ紹介します。一つ目は、バブル崩壊で打撃を受けた証券会社の再建プロジェクトです。証券会社の社内に設置されたプロジェクトチームに銀行を代表して参画し、他行からのメンバーと共に再建計画を立案する仕事でした。証券会社経営陣との経営責任をめぐる駆け引きなど、難しい調整も多くあり、大変ながらも銀行員として貴重な経験をする事ができました。二つ目は、1998年から2004年まで6年間の米国駐在です。最初の5年間はメガバンクのニューヨーク支店でしたが、2001年9月11日、いわゆる「9.11」当日も現地にいました。「9.11」自体はとても厳しい出来事でしたが、その後、アメリカという国が悲しみを乗り越え力強く歩みだすさまを現地で感じられたことは大きな財産となりました。米国での最後の1年間は大学院に入学し経営学を学びました。キャンパスは、ハイテク産業の中心地シリコン・バレーの中。起業家も身近で、ビジネスを生み出す熱量に大きな刺激を受けた1年間でした。

商経学科では金融関連の科目を主に担当しています。講義では、「ビジネスの現場を感じられる」、「学生に考えてもらう」をテーマに取り組んでいます。ビジネスの現場では、日々正解のない課題に直面し、知恵を出し合いながら動かしているのが現実です。課題に直面した時に必要なことは、ベースの知識と理論、柔軟な発想力、論理的な思考力、そして決断力と実行力です。基礎的な知識と理論を学んだ上で、実際のビジネス現場とどのように関連しているのかを理解してもらえよう、自分が経験した事例を多く紹介するように心掛けています。学生の皆さんが、自分で考え、判断し、行動できる人間として社会に羽ばたけるよう、お手伝いが出来ればと思っています。

新任のご挨拶 生活科学科 田邊 しずか

2021年4月に生活科学専攻の助教として着任しました。科目はファッションデザイン論、服飾文化史、ファッションアイテム演習を担当します。若輩ではございますが、精一杯務めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

私の出身は群馬県ですが、大学進学から10年ほど東京やその周辺にいました。日本女子大学家政学部被服学科の学部4年と大学院修士課程2年を経て、新卒で旅行会社に就職し、webデザインの部署で勤務しておりました。しかし、「いつかは大学に戻って研究をしたい」という思いがあり、一般企業で働きつつも学会には所属し続け、結婚や出産ほか様々な環境の変化をきっかけに、研究の世界へ戻ることを決めました。そして学術研究員として母校に戻ることができ、服飾文化史の研究活動を行いつつ、被服構成学や被服材料学の非常勤助手として勤務しておりました。

研究は、西洋服飾文化史が専門であり、定期刊行物を史料として特に17世紀後半のフランス服飾文化に関する研究を行っております。17世紀の後半は、現在の三つ揃いの紳士服の組合せが生まれた時代です。現在、日本人（ほか世界中の多くの人々）は、洋服（西洋由来の服）を着て生活しています。そのため「洋服」が広く着られるようになったことに関しては多くの研究がありますが、私自身は紳士服の歴史を遡り、その組合せが生まれた17世紀後半の男性服飾に焦点を当てて探っているところです。そして、これからの日本の服飾文化のなかで、着物と洋服が共存しながら着物文化を持続させていくにはどのようなことが必要であるのか、服飾文化を研究する者として、また地域の伝統的な染織品を有する鹿児島県で教育に携わるからには、常に考えていかなければならないと、身の引き締まる思いでおります。

着任から半年ほど経ちましたが、講義では意欲的な学生たちを目の前にして、今までのペース以上に私もさらに学び続けなくては、という気持ちを強くしております。県短の教員として、充実した内容の講義を行えるよう、日々努めてまいります。

■ 生涯学習の取り組み

2021 年度鹿児島県立短期大学公開講座（鹿児島県民大学連携講座） 「ニューノーマルで豊かな生活」 文学科 小林 朋子

本年度の公開講座は、「ニューノーマルで豊かな生活」をテーマとして、これまでの社会基盤や生活様式を大きく変える出来事であった新型コロナウイルスの感染拡大を経験した私たちにとって、新しい生活様式における「豊かな生活」とは何か、生活科学科の講師陣がそれぞれの専門分野から展望した。講座は5月22日から7月10日までの毎週土曜日の午後、全8回にわたり実施し、受講登録者数24人、延べ受講者数155人であった。なお、6回以上受講した19名には修了証が授与された。本年度も感染防止対策を取りながらの開催となったが、17歳から88歳までの様々な年代の方々に学びの場を提供することができた。関係者の皆さまに感謝申し上げたい。

◇各講座の担当者とテーマは次表の通りである。

第1回 5/22 (土)	コロナ禍と芸術	北一浩 (生活科学科准教授)
第2回 5/29 (土)	Go To 地域遺産 ーかごしまの廃駅跡地を考えるー	宍戸克実 (生活科学科准教授)
第3回 6/5 (土)	デザインのお話 ーコロナで変わったこと、これから変わることー	上笹貫鷹暁 (生活科学科助教)
第4回 6/12 (土)	ちいさいけれどもひろい家、 おおきいけれどもおちつく家	川島茂 (生活科学科教授)
第5回 6/19 (土)	ニューノーマル時代の衣生活	浅海真弓 (生活科学科准教授)
第6回 6/26 (土)	ソーシャルディスタンスの心理学	田中真理 (生活科学科准教授)
第7回 7/3 (土)	非常事態の服装文化史	田邊しずか (生活科学科助教)
第8回 7/10 (土)	今考えたい消費者問題 ー契約トラブルを中心にー	坂上ちえ子 (生活科学科教授)

◇各講師の講座内容は次の通りである。

第1回 北 一浩

世界のアート市場は、コロナウイルス感染拡大前まで活況を呈していた。中国、並びに中東産油国の旺盛な購買意欲に牽引され、オークション・ベースだけでも7兆3000億円（2018年）に上っていた。しかし、新型コロナウイルスが状況を一変させた。このパンデミックはアート市場にどのような影響を与えているのか。

講座では、人類が疫病といかに対峙し、芸術に与えた影響を振り返るとともに、ウィズ/ポスト・コロナ時代のアート界について市場動向を中心に予測。同時に、歴史的転換点を迎えた現在、様々なアーティストによる作品紹介を通じて、その作品に込めた意図を探った。

第2回 宍戸 克実

鉄道は近代化を象徴する交通機関であり、駅は街の新しい玄関口としてまちづくりが進められてきた。しかし鉄道需要の低迷により、特に北海道や九州において数多くの鉄道路線が廃止された。これまでに鹿児島県内で廃止された鉄道路線としては枕崎線、知覧線、万世線、宮之城線、山野線、栗野線、大隅線、志布志線があり、駅跡地は100ヶ所にのぼる。駅跡地はかなり地味な存在であるが、事例を100も集めて並べるとそれなりの価値を持った地域遺産として輝き出すように思う。駅跡地が「まちづくりの種地」としての可能性を秘めている点をふまえながら、現地の状況や活用事例を紹介した。

第3回 上笹貫 鷹暁

デザインとは「課題を解決するための手段の

1つ」である。コロナ禍で大きく変化した社会に対し、世界各国のデザイナーがコロナ禍で生じた課題とどう向き合い、課題解決を試みたのか、グラフィック、プロダクト、広告など幅広くデザインに関わる最新の事例を紹介した。また、オンラインでのコミュニケーションが増加したことで生じる利便性とデジタル・デバイド(情報格差)について、今デザインに何ができるのか、UXデザインなどの事例を紹介し、今後予想される展望を述べた。デザインとは「より良い暮らしのための工夫である」とした解釈はコロナ禍においても普遍的であると、今必要とされる課題意識とそれに向き合う心得について考察した。

第4回 川島 茂

建築は、決して場所の狭さ、広さによって良否が決まるわけではなく、小さいからこそその良さや大きさゆえに凝らさなければならない操作を自作の住宅設計作品を通してあかしてゆく。そこには設計やデザインに潜む形だけでは語りえない、むしろ形でない意図が、利用者や訪問者に語りかける創出の価値が浮き彫りにする。私たちは物理的なものの行き来にのみ縁取られた世界に生きているのではなく、多様なものを観察し、考察し、見出しうる理念を発見することも求め、日々活動を続けている。

コロナ禍で失われたもののみに関心が寄せられる時世にあって、そこから立ち上がるべき術を、建築を契機にみつけてもらえればとの思いで講座に取り組んだ。

第5回 浅海 真弓

新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの衣生活も少なからず影響を受けた。本講座では、コロナ禍でのファッション業界の変化や、消費者の衣服に対する価値観やお手入れ方法の変化等について解説した。例えば、在宅勤務の増加によって仕事服の着用機会が減少した、外出自粛でこれまでクリーニングに出していた衣類を家庭で洗濯する人が増えたことなどが挙げられる。また、アンケート調査の結果を紹介し、コロナ前と比べ、スローファッションへの関心が高まっていることを説明した。講座の最後では、アフターコロナのファッションを予測し、ファッション業界の構造変化やこれからの衣服に期待される機能について解説した。

第6回 田中 真理

COVID-19の感染拡大によってもたらされた新しい生活様式は、社会生活のみならず人間関係そのものにも影響を及ぼしている。今回はソーシャルディスタンスをテーマに、人との距離や関係がこころに及ぼす影響について心理学の立場から解説した。まずは対人距離が関係性や親密性にとって意味するものや、最近の国際的なホットトピックである社会的孤立、人とのつながりと心身の健康の関係について取り上げた。さらにコロナ禍のような長期にわたるストレスと心身の健康について、ストレス理論を用いながら、ストレスといかに向き合いどのように対処したらよいかについて提示するとともに、心身の健康を維持するために日常で実践できるストレス対処方法について紹介した。

第7回 田邊 しずか

過去の西洋における感染症流行時の服装の例を挙げて、その具体像と服装の変化が生じた要因を解説した。14世紀のペスト大流行の際には、「毛穴から病が侵入する」という意見により、きつく織ったすべすべした生地で身体をぴったりと覆う服が推奨された。また、特にフランスにおいては、疫病の流行による入浴の禁止や、風呂屋は風紀を乱す場所であるという認識が広まったことに加え、木材価格の高騰や、喜捨としての入浴が下火になったこともあり、入浴文化が衰退する。そのため、16世紀頃から水で身体を洗うことよりも下着を交換することが衛生行為となり、衿やカフス、下着などの白いリネン類を表面化し強調することによって、その人物が清潔であることが表された。

第8回 坂上 ちえ子

まず、消費者問題とその防止や解決方法について、消費者の権利と責任を踏まえながら解説した。次に、売買や契約に伴う食い違いや注意点について説明した。モノやサービスを購入することは法律行為であり、購入や契約をする場合は、取引内容や支払い方法などを十分吟味、確認しなければならないことも伝えた。また、トラブルが多発する取引類型(訪問販売、通信販売、電話勧誘販売、連鎖販売取引など7類型)を対象とした法律である特定商取引法の内容と問題の具体例を示した。最後に、コロナ禍の契約トラブルや消費者問題について、国民生活センターが注意喚起をしている内容を中心に提示した。

2021 年度 伊敷公民館講座
文学科 小林 朋子

2021 年度伊敷公民館講座「シニア生き生き大学」は、本学の文学科、生活科学科、商経学科の教員により、10 月 13 日から 12 月 1 日まで、7 回にわたり実施された。

7 回の講座で延べ 149 名の受講者に講座を提供することができた。受講者のアンケートには、「先生の分かり易い説明で未知の世界を知ることができとても有難い学びとなった。普段の生活の中では素通りしてしまうことに気付かされた」、「難しい文章も分かり易く噛み砕いて説明していただき理解しやすかった」、「視点を変えて見ることでこのような考え方もあるということが分かり目からウロコだった」、「非常に楽しい講義であった。時間が短かったのが残念である。またの機会を楽しみにしたい」など各回とも多くの好意的な感想を得た。

以下では、各回の担当者とテーマ、講座の概要および講師陣のコメントを掲載する。

◇各講座の担当者とテーマ

回	実施日	講師名 (所属)	テーマ
1	10/13	土肥 克己 (文学科)	スキタイの文化 (前 8 ～前 3 世紀)
2	10/20	山本 敬生 (商経学科)	憲法と条例
3	10/27	船津 潤 (商経学科)	経済ニュースの理論的読み解き方
4	11/10	川島 茂 (生活科学科)	建築を設計するという事。
5	11/17	田口 康明 (商経学科)	「2 年目になった新型コロナウイルス感染症と学校の『おつきあい』」
6	11/24	ガルシア・アロヨ ホルヘ (文学科)	音楽におけるアメリカの理想
7	12/1	山下 三香子 (生活科学科)	和食の心, 高齢期まで

第 1 回 土肥 克己

【概要】

紀元前 8 世紀以降、騎馬遊牧民はユーラシアの東西にまたがって活動し、西のペルシア、ギリシア、東の中国のような定住型文明に脅威を与える一方、金製品に代表される個性的な文化を創造した。紀元前 7 世紀に黒海北岸に現れたスキタイを中心にして、騎馬遊牧民の生活様式や歴史、文化を紹介した。

【コメント】

前半部分の生活様式や歴史の説明で時間をかけすぎ、後半の文化の説明が駆け足になった。古墳の発掘や出土した金製品など、遺物の多くを紹介しきれなかったのが、機会があればまた話したい。

第 2 回 山本 敬生

【概要】

地方自治の観点から、上乗せ条例、横出し条例、上積み条例の重要性をわかりやすく説明した。また、条例が法令に違反しているか否かの判断基準である法令先占論の問題点を解説し、

憲法と条例の関係に関して、条例と財産権、罪刑法定主義、租税法主義との関係から分析した。さらに先進的な地方公共団体が創造した最新の条例を紹介した。

【コメント】

どの受講生も真摯かつ誠実に受講しており、好感がもてた。最後に受講生に鹿児島市に必要な条例は何かを提案してもらったが、ユニークな条例を多数提案していただき、大変興味深かった。

第 3 回 船津 潤

【概要】

市場経済の仕組みや GDP についての基本を押さえた上で、聞いた覚えがあるであろう経済・経済政策に関するニュースを、経済理論を使いながら読み解くことで、より深く理解してみようという内容の講座でした。総選挙が近かったため、経済政策については特定の政党等の支持や批判にならないよう配慮しました。

【コメント】

受講者の皆さんが積極的に発言や質問をして

くださり、さらに、そうした発言や質問が非常に鋭いものだったおかげで、充実した内容になったと思います。大変やりがいを感じました。

第4回 川島 茂

【概要】

建築を設計し、デザインすることについての思考過程を自作二世帯住宅の実施例を参照し、解説。設計者として、提供すべき建築の価値を考察する。

【コメント】

講義後、聴講者から多くの質疑があり、一般の方々にとっても、建築に対する関心の高さを強く感じるとともに、建築やデザインを介して教育に携わる責任を重く受けとめることとなった。また、聴講者がそれぞれの意見や疑問を投げかけることで聴講者を含む講座全体の市民交流の場としての意義を改めて知ることができた。

第5回 田口 康明

【概要】

2020年2月末から唐突な「全国一斉休校」から始まった感染症と学校の関係も二年目に入った。矢継ぎ早に出された諸通知も落ち着きを見せ、整理されつつあるように見える。また今回は大学を例外として学校を会場とする集団接種は行われなかった。そのことの意味についても話した。

【コメント】

ワクチンと子ども、社会的障壁について理解いただけたように思う。

第6回 ガルシア・アロヨ ホルヘ

【概要】

19世紀の最初の愛国的な歌から21世紀のアーバン・ミュージックまで、この講座では、アメリカの価値観と理想がどのような音楽で具体化されているを示すために、その音楽を通して米国の歴史を旅します。

【コメント】

公民館講座で参加するのは初めてで、公民館のスタッフから聴衆まで全て素晴らしかったので、今度もまたやりたいと思います。一方、2時間の講座なので、たくさん曲を再生することで、聴衆は高い注目を集め、そのおかげで楽しみながら新しいことを学ぶことができたと思います。

第7回 山下 三香子

【概要】

和食の食文化の成り立ちから、今日受講者が生きてこられた時代の食の変遷を辿ってみた。これまで皆さんに寄り添ってきた和食を検証し、その和食で高齢期を豊かに過ごしてもらい、またコロナ禍で疲弊した心に再び元気を取り戻してもらおうよう食にまつわる問題を取り上げた。

【コメント】

質問は様々で、サプリメント活用方法まで聞かれました。中には昔のことを話される方もいて、同じ時代を生きたリアルな食体験に皆さん共感されていました。元気な皆さんには、食の貧困や自給率の向上に貢献してもらえるように社会問題を共有しました。

新型コロナ支援融資等を受けた
鹿児島県内中小企業の調査
商経学科 宗田 健一

本研究の目的は、喫緊の国家的課題であるコロナ禍の中小企業の資金繰り支援における会計情報の活用状況を調査・分析することにより、アフターコロナにおけるデフォルト（資金繰り支援を受けた中小企業が債務不履行・貸倒れに陥ること）リスクを指摘し、デフォルトの軽減・回避について会計面から検討することにある。

そこで、鹿児島県内外の4機関（①金融機関 ②税理士事務所 ③信用保証協会 ④中小企業）に対し、「融資判断や保証判断の際の会計情報の活用状況」・「中小企業経営者の会計情報生成・開示状況」等、詳細な実態調査（アンケート調査・インタビュー調査）を実施することを予定している。

これらの調査結果から「会計情報を十分に活用しない融資や保証判断」の問題点を指摘し、改めて中小企業の会計情報の生成・開示・活用の重要性を指摘する。さらに会計情報を活用し情報の非対称性を解消させることにより、デフォルトを軽減・回避する理論的モデルを構築する。

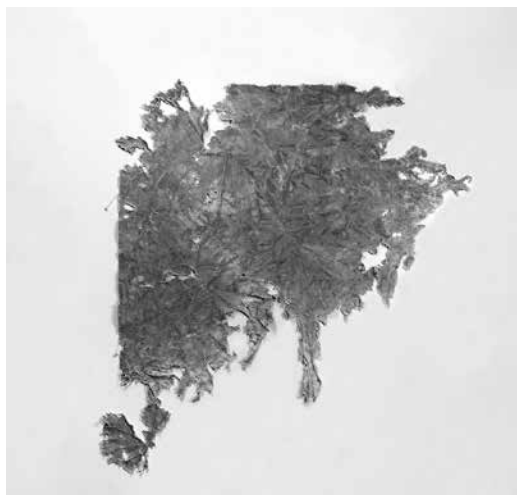
3年計画の1年目は、信用保証協会の保証業務、金融機関の融資に焦点を絞り、調査・研究を行った。また、鹿児島県信用保証協会との比較として、クライシス（阪神淡路大震災）を経験した兵庫県信用保証協会にもインタビュー調査も行った。さらに、鹿児島県中小企業家同友会の会員企業を対象として、「アフターコロナ金融支援に向けた鹿児島県内企業アンケート調査」を実施した。

研究成果の一部は、非営利法人研究会（2021年9月25日）ならびに中小企業会計学会（2021年9月19日）にて学会報告を行った。非営利法人研究会での報告論題は「クライシス下における信用保証協会の役割 -中小企業支援に着目して-」である。中小企業会計学会での報告論題は、「新型コロナ支援融資を受けた中小企業のデフォルトリスクに関する一考察-阪神・淡路大震災とコロナ禍における信用保証協会の対応を中心に-」である。なお、本研究は、櫛部幸子氏（鹿児島国際大学）との共同研究である。

奄美大島・泥染めによる美術作品の制作
生活科学科 北 一浩

大島紬の特徴でもある、多岐にわたる工程である。（主に、図案・締め・染色・加工・製織）大島紬を残すことはそれらの工程を残すことと同義であり、それぞれの工程における技術を他分野へ転用することにより新たなビジネスを生み出していくと同時に、工程を残すことにつながると考えた。その一例として染色（泥染め）を利用した美術作品の制作を数年にわたって取り組んできた。

昨年度より、作品の発表にも力を入れ取り組んできた結果として、“The 35th Chelsea International Fine Art Competition”(アメリカ)、“Arte Laguna Prize 15”(イタリア)、の二つの海外での現代アートのコンペティションにて入選を果たし、それぞれ Agora Gallery（ニューヨーク）、Arsenale Nord（ベネチア）で開催されたファイナリストの展覧会に参加した。また、コロナ禍の影響でアート業界もオンラインの展覧会やアワードが多くなった。そんな中、泥染めの作品で、CONTEMPORARY ART CURATOR MAGAZINEが主催する“Power of Creativity Art Prize”、“Collector’s Vision International Art Award”という2つのオンラインのアワードも受賞したこともここに記しておきたい。



Canvas of Dorozome #19 / mud dyeing on canvas / Arte Laguna Prize 15 出品作品

事業継承を行う中小企業における管理会計 導入要因の分析 商経学科 宗田 健一

2025年までに、70歳（平均引退年齢）を超える中小企業・小規模事業者の経営者は約245万人となり、うち約半数の127万（日本企業全体の1/3）が後継者未定であることが中小企業庁より指摘されている（いわゆる、「2025年問題」）。

大量の事業継承が発生することから、中小企業の一世代が終わるタイミング、すなわち世代交代時における事業承継に着目し、継承者である「次期経営者」が、何を、どのように承継していくのかについて実態を明らかにする。その際、複数代にわたり世代交代を行ってきた老舗中小企業から得られる示唆が大きいと考えられることから、社歴の長い中小企業を対象として考察を進めていく。

近年、事業承継上の課題は、中小企業の経営実務で認識されており、その解決策を模索する企業が急増している。本研究は、事業承継上の諸課題に対して、管理会計領域の立場から、承継物に関しては「会計情報の作成・利用のノウハウ」と規定して考察していく。なお、ここでの会計情報とは、貨幣的情報と物量情報（非貨幣的情報）の双方を指す。

本研究は、実際に事業承継したファミリービジネスを営む中小企業経営者へのインタビューによる事例研究を行なった。この調査に基づき、管理会計技法導入の契機とプロセス、調査時点で実践している具体的な管理会計および実践上の課題の観点から分析・考察した。調査結果は、López and Hiébl (2015) が示した管理会計システムの導入へ影響を与える4つの要因を基礎として整理した。

研究成果の一部は、中小企業会計学会の課題研究委員会メンバーとして学会報告を行った。論題は、「日本の中小企業会計の基礎概念に関する研究 ―文化的視座からのアプローチ―」である。

障害児の高校進学の全国的な状況 商経学科 田口 康明

ここでいう高校進学は、いわゆる高等学校への進学を指し、特別支援学校高等部などへの進学は含まない。障害の有無にかかわらず地域の学校に就学することをめざす運動の一環として、地域の小学校、中学校の後には地域の高校が存在する。日本の義務教育は親が子どもを学校に通わせる義務である「就学義務」によって就学先が指定される。高校の場合は入試制度があり、個々の学校の裁量のもと、入学が許可される。

障害のある子どもたちにどの程度、高校の門戸を開放しているのかを調査することが本研究の目的である。

コロナ禍のもと、2021年度、2020年度入試についての全国的な調査はできなかった。2020年の春に関しては、千葉県では定員内不合格として、3名の障害者が不合格となった。沖縄県は初めての受験者が不合格となった。愛知県では前年度の1名から3名のダウン症児の合格者を出した。北海道では、定時制高校に合格者を出した。香川県では16年連続不合格という受験者もいる。大阪、東京、神奈川は定員内不合格を公立高校では出さない都府県であるが、障害児向けと思われる別立てのコースが作られ、そこでの合格が増えている。このあたりの制度設計をどのように評価するのか、検討課題である。

いずれにせよ、訪問調査がむずかしい中、受験の制度、支援制度のありよう、受験の際の合理的配慮の提供状況などを調査しつつ、障害のある生徒の高校進学の実現に向けた諸準備について調査を深めていきたい。

日本近代における南方への想像力の研究
—屋久島を中心として
文学科 竹本 寛秋

本研究は、日本近代における南方への想像力のあり方について、屋久島を中心として検討するものである。

日本近代文学研究において、北海道や沖縄といった周縁的な地域がどのように表象されているかに着目する成果が、近年蓄積されている。例えば、国木田独歩における「北海道」表象が、「日本」の「自然」概念の再定義とつながることが指摘されている。あるいは、村井紀『南島イデオロギーの発生』では、柳田国男における「南島」へのまなざしが、「日本」を再定義する枠組みとして機能していると指摘されている。すなわち、周辺領域へのまなざしの反転が、「日本」の同一性を保証する思考の枠組みとして機能しているわけである。

屋久島は、現代においても、例えば芸術家などが移住先として目指す島としてある。ここにおいて、屋久島はどのようなものとして表象されているのか、そして、その表象はどのように歴史的に形成されたものなのか、それらを明らかにすることが重要な課題となる。その屋久島表象は、屋久杉の保存運動をはじめとして、社会運動、エコロジー思想、ビートニク運動、ヒッピー文化、反戦運動といった、様々な文化・思想の交錯により成立し、現在まで変容しつつ継承されているものであり、その様態を明らかにすることは、現代にまで続く「日本」の領域をめぐる思考の解明につながるはずである。

こうした見通しのもと、中心となる検討対象として、一九七〇年代に屋久島に移住した詩人、山尾三省をとりあえずの起点として設定し、研究を行った。研究遂行において、屋久島への調査を行う予定であるが、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、本報告執筆時点で出張調査は行うことができていない。感染状況を見ながら年度末までに行う予定としている。他方、山尾三省も多く寄稿している屋久島の情報誌『生命の島』や、『自然生活』、『80年代』といった、基礎的な文献の蒐集作業を行うことができた。今後これらを総合して、成果につなげるつもりである。



■ 研究・社会活動報告

鹿児島県立短期大学教員 研究・社会活動報告一覧
2021年1月～2021年12月

塩地 洋 学長
著書

- 『Management for Sustainable and Inclusive Development in a Transforming Asia』, Springer, 2021年1月, 340頁, 4名の共編, 担当箇所: Preface(v～ix頁)

学会活動

- 「南の島の放置車両問題をいかに解決するか」, 鹿児島国際大学経済学会, 2021年1月

学会活動

- International Federation of East Asian Management Associations, President (東アジア経営学会国際連合 会長) (2019年6月～2022年5月)
- GERPISA(2004年～現在)
- Business History Conference(2019年～現在)
- アジア経営学会名誉会長(2021年9月～現在)
- 産業学会(1981年～現在)
- 経営史学会(1982年～現在)
- 太平洋諸島学会(2017年～現在)

社会活動

- 日本自動車部品工業会 特別会員(2012年4月～現在)
- 経済産業省自動車取引適正化研究会 委員(2013年4月～現在)
- かごしまフォーラム 理事長(2020年11月～現在)

文学科

日本語日本文学専攻

木戸 裕子 教授

学術論文

- 「詩人が生涯を振り返るとき—平安朝文人と「与元九書」—」, 単著, 『語文研究』, 第百三十・百三十一号, 2021年6月, pp. 73-84.

学会活動

- 和漢比較文学会 1986年5月～現在 和漢比較文学会常任理事2011年10月～現在 和漢比較文学会西部例会委員会副委員長2015年10月～2021年9月 和漢比較文学会西部例会委員会委員長2021年10月～現在 和漢比較文学会

編集委員2021年10月～現在

- 中古文学会1986年5月～現在
- 西日本国語国文学会1988年9月～現在
- 東アジア比較文化会議 2002年9月～現在
- 説話文学会2005年6月～現在

社会還元

1. 講師

「紫式部日記を読む」, 金曜会(読書会), 於: 鹿児島青年会館艸舎, 2019年9月～現在

社会活動

- 鹿児島市文化財審議会委員
2013年11月～2015年10月
- 鹿児島市文化財審議会委員
2015年11月～2017年10月
- 鹿児島市文化財審議会委員
2017年11月～2019年10月
- 鹿児島市文化財審議会委員
2019年11月～2021年10月
- 鹿児島市文化財審議会委員
2021年11月～2023年10月
- 鹿児島市文化財審議会委員

竹本 寛秋 准教授

その他出版物(書評)

- 「坪井秀人著『二十世紀日本語詩を思い出す』」, 単著, 『日本近代文学』, 第104号, 2021年5月, pp. 92-95.

学会発表(口頭)

- 「雑誌『小天地』の基礎的研究—明治期地方文芸メディアの一ケースとして—」, 共同(掛野剛史, 竹本寛秋, 西山康一), 日本近代文学会関西支部秋季大会, オンライン開催, 2021年11月14日, 『日本近代文学会関西支部会報』, 34号, p. 2

その他(研究助成)

- 「雑誌『小天地』(金尾文淵堂発行)の基礎的研究—明治期大阪文芸メディアの戦略分析—」, 科学研究補助金, 基盤研究C(研究分担者), 2019～2022年度
- 「日本近代における南方への想像力の研究—屋久島を中心として」, 鹿児島県立短期大学地域研究所, 個人プロジェクト, 2021年度

学会活動

- 北大国語国文学会, 1996年4月～, 北大国語国文学会 評議員
- 日本近代文学会, 1996年4月～, 日本近代文

学会九州支部 運営委員, 『近代文学論集』 査読協力

- ・ 日本文学協会, 1996年4月～
- ・ 西日本国語国文学会, 2016年4月～, 西日本国語国文学会 支部委員
- ・ 日本比較文学会, 2009年4月～, 『比較文学』 査読協力
- ・ 昭和文学会, 1996年4月～
- ・ 暮鳥会, 2007年4月～

社会還元

1. 講師

「一歩進んだ小説の読み方」, 鹿児島県立短期大学オープンキャンパス ミニ講義, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年7月17日

2. 講師

「食をめぐる文化的背景と鹿児島県の産業と食」, 教員免許状更新講習, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年7月28日

3. 講師

「伝わる小論文を書くには」, 出張講義, 於: 鹿児島県立明桜館高等学校, 2021年7月30日

4. 講師

「遠隔授業の実践報告」, FD講演会, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年8月6日

5. 講師

「一歩進んだ小説の読み方」, 合同進学ガイダンス (大学地域コンソーシアム鹿児島: オンライン開催), 2021年12月4日

社会活動

1. 2021年10月13日, 鹿児島県高等学校文化連盟 弁論大会審査員長, 於: サンエールかごしま
2. 2021年11月23日, 第六十回鹿児島県高等学校 弁論大会審査員, 於: 鹿児島県教職員互助組合会館

土肥 克己 教授

社会還元

1. 講師

「中華料理の極致 満漢全席」, 教員免許更新講習, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年7月28日

2. 講師

「スキタイの文化 (前8～前3世紀)」, 伊敷公民館講座, 於: 伊敷公民館, 2021年10月13日

社会活動

1. 2021年1月30日, 「第26回外国人による日本語スピーチコンテスト」本選審査員, 於: かごしま県民交流センター

楊 虹 教授

学術論文

1. 「意見の述べ方についての日中対照研究」, 共著, (大野早苗, 楊虹), 『中国語話者のための日本語教育研究』, 第12号, 2021年9月, pp. 16-31

その他 (研究助成)

1. SNS接触場面のチャットにおけるフレームのマルチモーダル会話分析, 基盤研究 (C), 2021年4月～, 研究代表者

学会活動

- ・ 日本語教育学会 国際連携委員, 2021年4月～
- ・ 社会言語科学会 大会企画委員, 2021年4月～

社会還元

1. 講演

「談話分析の日中対照研究ー対面の会話やLINEのコミュニケーションから」, @同志社大学グローバルコミュニケーション学部, 2021年12月2日

英語英文学専攻

石井 英里子 准教授

学術論文

1. 「絵画鑑賞時の注視点分布のデータベース作成」, 共著, (野坂祐介, 猿樂拓也, 石井英里子, 星野祐子, 山田光穂), パーソナルコンピュータ利用技術学会論文誌, 15(1), 21-31, 2021

学会活動

- ・ TESOL International Association, 2008年3月～
- ・ 多文化関係学会, 2010年4月～ 事務局長 (2021年4月～)
- ・ 全国英語教育学会, 2018年9月～
- ・ 九州英語教育学会, 2018年9月～
- ・ メディア外国語教育学会 (LET), 2018年9月～
- ・ 大学英語教育学会, 2018年9月～

社会還元

1. 講師

「異文化コミュニケーション力と個別最適な学びー小学校英語教育の可能性を探るー」, 招待講演, 日本個性化教育学会第14回大会, オンライン開催, 2021年8月 29日.

2. 講師

「アクティブラーニングで学ぶ英語コミュニケーション」, 出張講義, 於: 鹿児島県立武岡台高等学校, 2021年11月13日

ガルシア・アロヨ ホルヘ 講師

学術論文

1. 「Becoming a Global Culture: An Analysis of the Manga industry and Its Diffusion in the US and Europe (Particularly in Spain)」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要』, 第72号, 2021年12月

学会活動

- ・ 日本アメリカ文学会, 2016年～, 会員
- ・ Melville Society, 2017年～2021年, 会員

社会還元

1. 講師

「音楽におけるアメリカの理想」, 伊敷公民館講座, 於: 鹿児島市立伊敷公民館, 2021年11月24日

小林 朋子 准教授

学術論文

1. 「多文化主義(マルチカルチュラリズム)の時代の『比較文化』—その実践から考える—」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要(人文・社会科学篇)』第72号, 2021年12月, pp. 19-30.

学会活動

- ・ 日本アメリカ文学会, 2006年～, 会員
- ・ 日本英文学会, 2006年～, 会員
- ・ 鹿児島英語英文学会, 2006年～, 会員
- ・ 多民族研究学会, 2011年～, 会員(2019年～大会運営委員)
- ・ 原爆文学研究会, 2019年～, 会員

土持 かおり 助教

学会活動

- ・ 大学英語教育学会(JACET)九州・沖縄支部研究企画委員, 2014年4月～
- ・ 大学英語教育学会(JACET)会員, 1984年9月～
- ・ 外国語教育メディア学会(LET)会員, 1984年6月～
- ・ 九州英語教育学会, 2002年6月～

遠峯 伸一郎 教授

学術論文

1. 「現代英語の制限関係代名詞節と非制限関係代名詞節の接点—ペーパーバックの例から中

学校における制限関係代名詞節指導の教育的示唆を考える」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要人文・社会科学篇』, 第72号, 2021年12月, pp. 103-113.

学会活動

- ・ 日本英語学会, 1995年～, 会員
- ・ 近代英語協会, 1997年～, 会員; 2018年4月～2022年3月, 編集委員

轟 義昭 教授

学術論文

1. 「Enchanted by Miniatures of Goddess Fortune in the *Roman de la Rose* Manuscripts: Part 1」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要』, 第72号, 2021年12月, pp. 85-102.

生活科学科

食物栄養専攻

有村 恵美 助教

学術論文

1. 「Comparison of Dipstick and Quantitative Tests for Proteinuria and Haematuria in Middle-aged, Japanese Male Workers: A single-center study」, 共著, (○Kanako Ikeda, Masaharu Abe, Izumi Masamoto, Chikako Ishii, Emi Arimura, Miharu Ushikai, Kaoru Oketani, Teruto Hashiguchi, Masahisa Horiuchi), Health Science Reports, 4(2), 2021年3月, e267.
2. 「亜鉛摂取状況と腹膜透析液を調査したPD+HD併用療法の一症例」, 共著, (○中熊美和, 有村恵美, 岩下龍史), 「鹿児島県立短期大学研究年報 2020」, 2021年3月, pp. 1-8.
3. 「Higher Branched-chain Amino Acids and Lower Serine Exist in the Plasma of Nondiabetic Mice: A Comparison Between High- and Low-protein Diet Conditions」, 共著, (○Emi Arimura, Miharu Ushikai, Masahisa Horiuchi), in vivo, 35(3), 2021年5月, pp1555-60.

その他出版物

1. 「透析療法の食事ポイント!(エネルギー・たんぱく質)」, 単著, 「かじんきょう No139」, 2021年1月, pp. 8-10.
2. 「透析療法の食事ポイント!(食塩・水分)」,

単著, 「かじんきょう No140」, 2021年3月, pp. 14-17.

3. 「透析療法の食事ポイント!(カリウム)」, 単著, 「かじんきょう No141」, 2021年7月, pp. 8-10.
4. 「透析療法の食事ポイント!(リン)」, 単著, 「かじんきょう No142」, 2021年9月, pp. 5-7.

学会発表

1. 「たんぱく質摂取量の血中アミノ酸への影響:野生型と2型糖尿病モデルマウスでの比較」, 共同, (○堀内正久, 有村恵美, 牛飼美晴), 第91回日本衛生学会学術総会(オンライン開催), 2021年3月6-8日

その他(研究助成等)

1. 研究代表, 科学研究費基盤研究(C)日本学術振興会「鹿児島市CKD予防ネットワークを活用した糖尿病腎症・網膜症栄養関連因子の検討」, 2018年4月~2023年3月
2. 研究分担, 科学研究費基盤研究(C)日本学術振興会「脂肪酸代謝異常病態におけるビタミンB1の果たす役割について」, 2018年4月~2021年3月
3. 共同研究, 日本腎栄養代謝研究会臨床研究「慢性腎臓病患者のたんぱく質制限食が腎機能低下抑制に及ぼす効果についての多施設研究」, 2018年9月~
4. 垂水元気プロジェクト調査チーム, 2021年~

学会活動

- ・ 日本病態栄養学会, 2002年6月~, 代議員(2019年4月~), 学術評議員(2020年1月~)
- ・ 日本糖尿病・妊娠学会, 2004年12月~
- ・ 日本腎臓学会, 2006年9月~
- ・ 日本糖尿病学会, 2007年5月~
- ・ 日本衛生学会, 2009年12月~
- ・ 日本糖尿病性腎症研究会, 2009年12月~
- ・ 日本CKDチーム医療研究会, 2010年10月~, 幹事(2011年10月~)
- ・ 日本糖尿病合併症学会, 2012年9月~
- ・ 日本産業衛生学会, 2014年12月~
- ・ 日本腎栄養代謝研究会, 2015年7月~, 幹事(2017年7月~)

社会還元

1. 指導者
栄養食事指導, 於:上ノ町・加治屋クリニック, 2021年1~12月
2. 学生栄養食事指導ポスター掲示支援・計画
「脂質異常症(食事のポイント・レシピ紹介)」, 於:鹿児島県庁, 2021年2月
3. 学生栄養食事指導ポスター掲示支援・計画

「高血圧症(食事のポイント・レシピ紹介)」, 於:鹿児島県庁, 2021年4月

4. 学生栄養食事指導ポスター掲示支援・計画
「糖尿病(食事のポイント・レシピ紹介)」, 於:鹿児島県庁, 2021年6月
5. 学生栄養食事指導ポスター掲示支援・計画
「カルシウム(カルシウムアップのポイント・レシピ紹介)」, 於:鹿児島県庁, 2021年8月
6. 学生栄養食事指導ポスター掲示支援・計画
「鉄(鉄分アップのポイント・レシピ紹介)」, 於:鹿児島県庁, 2021年10月
7. 学生栄養食事指導ポスター掲示支援・計画
「食物繊維(食物繊維アップのポイント・レシピ紹介)」, 於:鹿児島県庁, 2021年12月
8. 講師
「たんぱく質制限~透析導入遅延を目指して~」, 秋田県第43回糖尿病診療連携検討会, 於:秋田赤十字病院(オンライン開催), 2021年6月7日
9. 講師
「健康寿命Up!~早期発見・早期介入~」, 鹿児島県川薩地区日医認定産業医研修会, 於:川内市医師会館, 2021年6月25日
10. 講師
「栄養管理(小児疾患)」, 2021年度栄養教諭ステップアップ研修(5年経験者研修), 於:鹿児島県総合教育センター, 2021年7月2日
11. 講師
「食のパワー ~考えながら食べる」, 出張講義, 於:志布志高校, 2021年10月7日
12. 講師
「食のパワー ~考えながら食べる」, 出張講義, 於:大口高校, 2021年10月29日
13. 講師
「塩エコ(eco)&ベジプラス~重症化予防を目指して~」, 第2回糖尿病重症化予防推進研修会, 於:鹿児島県医師会館, 鹿児島県各市郡医師会等20会場(オンライン中継), 2021年11月8日
14. 審査委員
第18回森のごちそうコンクール審査員(鹿児島県, 鹿児島県竹産業振興会連合会, 鹿児島県椎茸農業協同組合), (書類審査)(実演審査:今村ライセンスアカデミー), 2021年10月, 2021年11月6日

社会活動

1. 2013年7月~, 鹿児島市慢性腎疾患(CKD)予防ネットワーク事業オブザーバー

- 2013年12月～，鹿児島市CKD手帳・世界腎臓デーワーキング委員

木下 朋美 助教

学術論文

- 「チャ園におけるチャノミドリヒメヨコバエの発生密度と新芽における被害との関係」，共著（小澤朗人，内山徹，木下朋美），関西病虫害研究会報，63，pp.127-130（2021）

学会発表（ポスター）

- 「鹿児島県の家庭料理 行事食の特徴－自然豊かな薩摩の祝い食－」，共同，（木之下道子，○木下朋美，大山典子，山下三香子，久留ひろみ，進藤智子，山崎歌織，新里葉子，森中房枝），日本調理科学会2021年度大会，於：実践女子大学大学（オンライン），2021年9月7日，日本調理科学会2021年度大会研究発表要旨集，p.76

研究協力

- 国際競争力強化技術開発プロジェクト「輸出促進のための新技術・新品種開発」

学会活動

- ・日本家政学会
- ・日本調理科学会
- ・日本茶業学会
- ・鹿児島県茶業技術協会
- ・茶学術研究会

社会還元

- 講師
「お茶を知ろう！お茶入りドライカレー作り」，かごしま環境未来館主催学習講座，於：かごしま環境未来館，2021年6月19日
- 講師
「乳幼児期の食と食育」，さがらウイメンズヘルスケアグループ職員研修会，於：松原の杜保育園，2021年7月10日
- 講師
「『鹿児島県の産業と食』～鹿児島県の茶と食育～」，令和3年度教員免許状更新講習，於：鹿児島県立短期大学，2021年7月28日
- 講師
「お茶の香りと食育」，日本茶インストラクター協会南九州ブロック研修会，於：かごしま茶流通センター，2021年12月11日
- 産学連携に関するマスコミ報道
県産抹茶を使用した抹茶饅頭の提供，MBC（2021年5月13日放送），KKB（2021年5月13日放送），南日本新聞（2021年5月15日掲載），日本農業新聞（2021年5月17日掲載）

- 産学連携に関するマスコミ報道
県産紅茶を使用した紅茶どらやきの提供，MBC（2021年11月11日放送），KYT（2021年11月11日放送），南日本新聞（2021年11月14日掲載），日本農業新聞（2021年11月17日掲載）

- 産学連携に関するマスコミ報道
かごしまお茶マルシェ2021出展（南日本新聞，2021年11月18日掲載）

社会活動

- 2005年4月～現在，NPO現代喫茶人の会，理事
- 2013年4月～現在，お茶料理研究会，世話人
- 2016年10月～現在，鹿児島県茶業会議所，かごしま茶販路拡大対策等活動助成
- 2017年6月～現在，かごしま黒茶研究会，会員
- 2019年1月～現在，鹿児島市農業振興協議会，委員
- 2019年9月～現在，産学連携による「黒酢プロジェクト」への参加
- 2020年6月～現在，鹿児島県茶生産協会，茶業経営向上活動事業

多田 司 准教授

学術論文

- 「黒豚肉の消費者パネルによる総合評価に影響する官能特性要因の検討」，共著，（○大小田勉，喜田克憲，多田司，井尻大地，大塚彰），『日本官能評価学会誌』，第25巻，第1号，2021年4月，pp.8-14.

研究ノート

- 「肥育飼料の甘藷原料の違いが「かごしま黒豚」の成長と肉質に及ぼす影響」，共著，（○大小田勉，井之上弘樹，高橋宏敬，喜田克憲，多田司，井尻大地，大塚彰），『鹿児島県農業開発総合センター研究報告』，第15号，2021年3月，pp.143-148.
- 「豚肉の美味しさ（好き嫌い）に影響する要因の検討」，共著，（○大小田勉，喜田克憲，多田司，井之上弘樹，高橋宏敬，井尻大地，大塚彰），『養豚の友』，2021年6月号（通巻第627号），2021年6月，pp.34-38.

学会活動

- ・日本栄養・食糧学会，1996年4月～，正会員
- ・日本農芸化学会，1998年4月～，正会員

社会還元

- 講師
「ごはん食べてる？」，令和3年度オープンキャンパスミニ講義，於：鹿児島県立短期大

学, 2021年7月17日

2. 講師

「食育の最新情報」, 2021年度教員免許更新講習「食育の最新情報, 食に関する指導ならびに衛生管理の実際」講義3, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年7月21日

古川 那由太 助教

学術論文

- 「Insights into the inhibition of MOX-1 β -lactamase by S02030, a boronic acid transition state inactivator」共著 (Tatsuya Ishikawa, Nayuta Furukawa, Emilia Caselli, Fabio Prati, Magdalena A. Taracila, Christopher Bethel, Yoshikazu Ishii, Akiko Shimizu-Ibuka and Robert A. Bonomo) 『Frontiers in Microbiology』 12:720036, 2021年12月.

学会活動

- ・ 日本生化学会 2012年6月～
- ・ 日本農芸化学会 2012年11月～

町田 和恵 教授

資料

- 始良・伊佐地域の保育所・認定こども園における実践献立集, 共著 (町田和恵, 下入佐智美), 2021年1月, pp. 1-113.

社会還元

1. 講師

「食に関する指導の実際」, 教員免許更新講習 鹿児島大学, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年7月21日

社会活動

- 2015年4月～ 公益財団法人かごしま環境未来財団評議員

山下 三香子 准教授

著書

- 『福祉を拓くー現代福祉の諸論ー』, 南方新書, 14章単著, 2021年6月, pp. 233-254.
- 『食育共創論ー地域と世代の实践から食の未来を拓くー』, 筑波書房, 4章単著, 2021年10月, pp. 64-77.

学術論文

- 「Association of Protein and Magnesium Intake with Prevalence of Prefrailty and Frailty in Community-Dwelling Older Japanese Women」, 共著・査読, (Kori Kaimoto, Mikako Yamashita, Taro Suzuki, Hyuma Makizako

, Chihaya Kooriyama, Takuro Kubozuka, Toshihiro Takenaka, Mituru Ohishi, Hiroaki Kanouchi) *J Nutr Sci Vitaminol*. 67. 39-47, 2021

学会発表 (口頭)

- 「鹿児島県の家庭料理 行事食の特徴ー自然豊かな薩摩の祝い食ー」, 共同, (木之下道子, 〇木下朋美, 大山典子, 山下三香子, 久留ひろみ, 進藤智子, 山崎歌織, 新里葉子, 森中房枝), 日本調理科学会2021年度大会, 於: 実践女子大学大学 (オンライン), 2021年9月7日, 日本調理科学会2021年度大会研究発表要旨集 p.76
- 「Investigating the state of nutrition education of the people of nutrition care management at home on Japan」 Ikuko Matui, Shizuka Watanabe, Mikako Yamashita, 52nd ASIA-PACIFIC ACADEMIC CONSORTIUM FOR Public Health CONFERENCE Surabaya-Indonesia, 2021, 10

その他 (研究協力, 研究助成等)

- 垂水元気プロジェクト調査チーム, 2017年～
- 『在宅医療・介護ケアにおける管理栄養士・栄養士教育について』, 科学研究費助成事業基盤研究 (C) 分担者, 2018年～

学会活動

- ・ 日本社会福祉学会, 2007年 4月～
- ・ 日本栄養改善学会, 2008年 4月～
- ・ 日本保健福祉学会, 2008年 4月～
- ・ 鹿児島農村医学研究会, 2012年4月～
- ・ 日本給食経営管理学会, 2012年9月～
- ・ 日本調理科学会, 2013年 8月～
- ・ 日本食育学会, 2014年 4月～
- ・ 日本老年社会科学会, 2016年 6月～
- ・ 日本公衆衛生学会2019年～

社会還元

1. 講師

「学校給食の実査」, 教員免許更新講習, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年7月21日

2. TV出演

KTS かごnew「ドライフルーツ・ナッツ」 2021年5月28日放映

3. TV出演

KTS かごnew「SDGs で注目!」 2021年8月19日放映

4. 講師

「和食の心, 高齢期まで」, 伊敷公民館講座, 於: 伊敷公民館, 2021年12月1日

社会活動

- 2012年 4月～, 鹿児島農村医学研究会, 調査

研究委員会幹事

- 2019年 9月～，産学連携による「黒酢プロジェクト」への参加
- 2019年10月～，日本給食経営管理学会，評議委員
- 2021年4月，「和食文化継承人材育成研修」修了

生活科学専攻

浅海 真弓 准教授

学術論文

- 「画像解析による多色色柄布のイメージカラーの評価」，共著，(○浅海真弓，森俊夫)，『日本衣服学会誌』，第64巻，第2号，2021年3月，pp. 69-74.

学会発表 (口頭)

- 「機械学習による和服と洋服の色柄模様の判別」，共同，(○浅海真弓，田中美帆，三澤今日子，鈴木桃子，森俊夫)，日本家政学会第73回大会，於：神戸女子大学 (オンライン開催)，2021年5月30日，日本家政学会第73回大会研究発表要旨集，p. 98.
- 「ディープラーニングによる天然染料と合成染料で染めた染色布の判別」，共同，(○森俊夫，石田実紅，國見圭奈子，嘉陽美智，浅海真弓)，日本繊維製品消費科学会2021年年次大会，オンライン開催，2021年6月20日，日本繊維製品消費科学会2021年年次大会・研究発表要旨，p. 22.

学会活動

- 日本衣服学会，2003年6月～
- 日本繊維製品消費科学会，2004年2月～
- 日本家政学会，2004年6月～，日本家政学会被服材料学部会幹事 (2017年5月～)，日本家政学会第48回被服材料学部会夏季セミナー実行委員 (2020年1月～2021年10月)，日本家政学会第74回大会実行委員 (2020年10月～)，日本家政学会被服材料学部会役員 (2021年5月～)
- 日本色彩学会，2005年7月～2021年3月

社会還元

- 講師
「ニューノーマル時代の衣生活」，鹿児島県立短期大学公開講座，於：鹿児島県立短期大学，2021年6月19日

上笹貫 鷹暁 助教

社会還元

- 講師
「デザインのお話ーコロナで変わったこと，これから変わるこー」，鹿児島県立短期大学公開講座「ニューノーマルで豊かな生活」，於：鹿児島県立短期大学，2021年6月5日
- 講師
「デザインあたま」，鹿児島県立短期大学 夏のオープンキャンパス ミニ講義，於：鹿児島県立短期大学，2021年7月17日
- 撮影協力
「霧島アートの森」，『日事連』日本建築士事務所協会連合会発行，2021年7月号掲載

デザイン (実務)

- D2Cブランド「ななほし商店」ブランディングデザイン (始良市)，アートディレクション・デザイン
- 霧島産有機栽培茶「ななほし茶」パッケージデザイン (始良市)，アートディレクション・デザイン

川島 茂 教授

学会活動

- 日本建築学会
- 日本建築家協会

社会還元

- 2020年12月19日～2021年1月14日，10人の家展／鹿児島県立短期大学 (6坪ギャラリー) 学生作品展示支援，展示計画
- 2021年1月20日，民家再生協会かごしま1月度例会講演講師／「建築を設計するということ」(かごしま環境未来館 多目的ホール)
- 2021年2月2日～8日，「生活科学専攻卒業研究作品展2021」(学内展) 学生作品展示支援，展示計画協力
- 2021年2月13日～14日，「鹿児島建築学生合同設計展 Kagoshima Design Project 2021」(かごしま県民交流センター) 学生作品展示支援，展示計画協力
- 2021年3月3日～3月8日，「生活科学専攻卒業研究作品展2018」(マルヤガーデンズ Unitement garden) 学生作品展示支援，展示計画協力
- 2021年4月～6月，鹿児島大学工学部建築学科「建築設計Ⅲ」(設計課題：人とまちを動かすアートプレイス) 講師
- 2021年5月，コラム「美術館・博物館巡り霧島アートの森」寄稿／「日事連」2021年7月

号掲載

- 2021年6月12日, 令和3年度公開講座講師／「ちいさいけれどもひろい家, おおきいけれどもおちつく家」
- 2021年10月23日～24日, かごしま住まいと建築展 (かごしま県民交流センター) 学生作品展支援, 展示計画
- 2021年10月23日～24日, JIA建築展 (かごしま県民交流センター) 2019卒業制作作品出展企画支援
- 2021年11月10日, 伊敷公民館講座講師／「建築を設計するということ。」(伊敷公民館)
- 2021年12月17日～2022年1月12日, ちいさないえのけんちく展／鹿児島県立短期大学 (6坪ギャラリー) 学生作品展示支援, 展示計画

社会活動

- 2020年4月～, 鹿児島市都市計画審議会 委員

北 一浩 准教授

社会還元

1. 講師

「コロナ禍と芸術」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於: 鹿児島県立短期大学, 2020年5月22日

社会活動

- 2018年4月～, 鹿児島市クリエイティブ産業育成支援検討委員

受賞

- 「Canvas of Dorozome #16」, The 35th Chelsea International Fine Art Competition (主催: NY Art Competitions), アメリカ, 2020年12月
- 「Canvas of Dorozome #19」, Arte Laguna Prize 15 (主催: Cultural Association MoCA), イタリア, 2021年2月
- 「Canvas of Dorozome #14」他, Collector's Vision International Art Award (主催: CONTEMPORARY ART CURATOR MAGAZINE), オンライン, 2021年5月
- 「Canvas of Dorozome #20」他, Power of Creativity Art Prize (主催: CONTEMPORARY ART CURATOR MAGAZINE), オンライン, 2021年9月

展覧会 (グループ展)

- 「Canvas of Dorozome #16」, The 35th Chelsea International Fine Art Competition Collective Exhibition, Agora Gallery (ニューヨーク), 2021年2月16日～3月10日

- 「Canvas of Dorozome #20」, First International Festival of Manuports, Kohta (ヘルシンキ), 2021年8月12日～10月10日
- 「Canvas of Dorozome #19」, Arte Laguna Prize Exhibition, Arsenale Nord (ベネチア), 2021年10月3日～11月21日

デザイン (実務)

- 「かごんまドギーバック」パッケージデザイン, アートディレクション, 2021年7月～11月
- 「鹿児島市パートナーシップ宣誓制度」ロゴ・ポスター・チラシデザイン, アートディレクション, 2021年1月～12月

掲載作品

- 「Canvas of Dorozome」, 『研究年報』第52号 (鹿児島県立短期大学地域研究所), 2021年3月, pp. 53
- 「Canvas of Dorozome」, 『研究年報』第52号 (鹿児島県立短期大学地域研究所), 2021年3月, pp. 54

坂上 ちえ子 教授

学会活動

- 日本家政学会, 1990年～
- 日本色彩学会, 1992年～, 評議員, 関西支部役員
- 日本生理人類学会, 1992年～
- 日本教育心理学会, 2005年～

社会還元

1. 講師

「今考えたい消費者問題—契約トラブルを中心に—」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於: 鹿児島県立短期大学, 2020年7月10日

社会活動

- 2021年3月～2023年2月, 鹿児島県伝統工芸品産業振興対策協議会委員
- 2021年4月～2022年3月, 鹿児島市屋外広告物審議委員会委員
- 2021年4月～2024年3月, 鹿児島県屋外広告物審議委員会委員

穴戸 克実 准教授

その他 (研究協力等)

1. 委託業務

文化庁・令和3年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業 (専門家交流) 実施委託業務「カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業／住民参加のまちづくり」, 責任者: 連健夫 (日

本建築まちづくり適正支援機構), ~2022年3月31日

2. 研究協力

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所情報資源利用研究センタープロジェクト「カイロのイスラーム建築データベースの構築」

3. 研究会発表

中東・オリエント建築研究会 (第6回) Zoom発表, 「中東地域の伝統的喫茶空間: カイロ旧市街におけるアフワの立地と形態」, 2021年12月14日

学会活動

- ・ 日本建築学会
- ・ 日本中東学会
- ・ 地中海学会
- ・ 日本トルコ交流協会

社会還元

1. 講師

「Go To 地域遺産—かごしまの廃駅跡地を考える—」, 鹿児島県立短期大学公開講座(『ニューノーマルで豊かな生活』), 2020年5月29日

田中 真理 准教授

資料

1. 「2020年度教育実習の実態調査」, 共著 (○田中真理・田口康明), 『鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報』(52), 2021年3月, pp. 55-72.

学会活動

- ・ 日本老年行動科学会, 2006年～
- ・ 日本心理学会, 2007年～
- ・ 日本発達心理学会, 2008年～
- ・ 日本心理臨床学会, 2009年～
- ・ 日本老年行動科学会, 2011年1月～, 常任理事
- ・ 日本老年行動科学会, 2020年1月～, 事例検討委員会委員長
- ・ 日本老年行動科学会第73回大会, 副大会長

社会還元

1. 講師

「ソーシャルディスタンスの心理学」, 2021年度公開講座「ニューノーマルで豊かな生活」, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年6月26日

田邊 しづか 助教

学会発表 (口頭)

1. 「日本女子大学卒業生小林孝子の衣服標本研究—1930年代の日本女子大学生とその家族の衣生活—」, 共同, (○森理恵, 松梨久仁子, 内村理奈, 奥脇菜那子, 岸本美香子, 安藤健, 沢尾絵, 箕輪恵枝, 田邊しづか), 2021年度日本女子大学総合研究所研究発表会, 於: オンライン開催, 2021年11月13日

その他 (研究協力)

1. 客員研究員, 日本女子大学総合研究所研究課題72「日本女子大学卒業生小林孝子の衣服標本研究—1930年代の日本女子大学生とその家族の衣生活—」, 2020年9月～2022年3月

学会活動

- ・ 服飾文化学会, 2016年5月～

社会還元

1. 講師

「非常事態の服装文化史」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年7月3日

2. 講師

「ファッション文化史 西洋編」, 公益社団法人 日本理容美容教育センター 理容師美容師養成施設教員資格認定研修会文化論講師, 於: 日本理容美容教育センター, 2021年10月26-27日

商経学科

経済専攻

岩上 敏秀 教授

社会還元

1. 講師

「コロナ後のビジネス社会を展望」, 附属図書館金曜講演会, 2回目「金融が変わる! フィンテック最前線」, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年11月12日

岡田 登 准教授

学術論文

1. 「地域農業の担い手による経営規模拡大とその政策的支援—鹿児島県南九州市を事例に—」, 単著, 『鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報』, 第52号, 2021年3月, pp. 9-24.
2. 「九州地方における土地改良事業の展開と農業法人化」, 単著, 『鹿児島県立短期大学商経論叢』, 第72号, 2021年10月, pp. 1-18.
3. 「鹿児島県における畑地かんがい事業の展開

と農業法人化」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要 人文・社会科学編』, 第72号, 2021年12月, pp. 41-59.

学会発表 (口頭)

1. 「鹿児島県における野菜生産法人の設立と脱産地化」, 単独, 経済地理学会西南支部3月例会 (オンライン), 2021年3月13日

その他 (研究助成)

1. 研究代表者, 科学研究費基盤研究 (C) 日本学術振興会「輸入農産物影響下における野菜生産法人の増加と産地再編成」, 2017年4月～2022年3月

福田 忠弘 教授

学術論文

1. 「戦前期蘭印における邦船銃撃事件について -第7徳栄丸及び泰進丸事件」, 単著, 『研究年報』第52号, 2021年3月, pp. 25-42.

その他 (研究助成)

1. 研究代表, 科学研究費基盤研究 (C) 日本学術振興会「戦前期日本人水産業者の外南洋進出と南進論」, 2020年4月～2022年3月.

社会還元

1. 講師
「鹿児島の産業と食」, 2021年度教員免許更新講習「食をめぐる文化的背景と鹿児島県の産業と食」講義3, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年7月28日.

船津 潤 准教授

学会活動

- ・ 日本地方財政学会, 2000年～
- ・ 日本財政学会, 2000年～

社会還元

1. 講師
「経済ニュースの理論的読み解き方」, 生き生き大学 (鹿児島市伊敷公民館主催), 於: 伊敷公民館, 2021年10月27日

社会活動

1. 2021年8月～9月, 未来国会2021, メンター

山口 祐司 講師

著書

1. 日本科学史学会編『科学史事典』, 丸善出版, 2021年5月, 726総頁, 担当章: 第8章「科学・国家・産業」(「製薬」の項), pp. 548-549.

社会還元

1. 講師
「経済学を学ぶ意味」, 出張講義, 於: 鹿児

島東高校, 2021年12月17日

経営情報専攻

岡村 俊彦 教授

学会活動

- ・ 日本人間工学会, 1987年4月～
- ・ 日本生理心理学会, 1988年4月～
- ・ 日本心理学会, 1989年10月～

社会還元

1. 講師
「ICT技術向上による効率的業務の進め方」, 「教育市場におけるDX (デジタル革命) とAIが社会にもたらす影響」, 中堅教諭等資質向上研修 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年8月4日
2. 講師
「コロナ後のビジネス社会を展望」附属図書館金曜講演会, 1回目「新型コロナで加速するDX (デジタル革命)」, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年11月5日
3. コラム
執筆産業保健の話題「DXと産業保健」, 鹿児島県医師会報 第845号, 2021年11月

社会活動

1. 2003年4月～, 鹿児島産業保健総合支援センター 特別相談員
2. 2007年4月～, 鹿児島女子高等学校 学外評議員
3. 2013年3月～, 鹿児島ラ・サール学園 評議員

岡村 雄輝 准教授

学会活動

- ・ 日本簿記学会, 2018年8月～
- ・ 日本記号学会, 2017年4月～
- ・ 日本会計研究学会, 2013年9月～
- ・ 日本会計史学会, 2012年10月～
- ・ 九州経済学会, 2009年12月～

社会活動

1. 2019年9月～, 鹿児島県公衆浴場入浴料金審議会委員

瀬口 毅士 准教授

学会活動

- ・ 日本経営学会, 2006年～
- ・ 日本比較経営学会, 2004年～
- ・ 日本流通学会, 2014年～

- ・ 多国籍企業学会, 2013年～
- ・ 経営史学会, 2014年～

社会活動

1. 2021年10月～現在, 鹿児島市新規創業者等育成支援検討委員会委員

近間 由幸 講師

その他出版物 (書評)

1. 「片渕卓志著『トヨタ品質管理のメカニズム』, 単著, 『日本労働社会学会年報』, 第32号, 2021年10月, pp. 111-116.

学会活動

- ・ 日本労働社会学会, 2015年～
- ・ 社会政策学会, 2016年～
- ・ 労務理論学会, 2019年～

社会還元

1. 講師
「コロナ後のビジネス社会を展望」附属図書館金曜講演会, 1回目「働き方が変わる! 個人事業主とテレワークから見る働き方改革」, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年11月5日
2. 講師
「コロナ後のビジネス社会を展望」附属図書館金曜講演会, 3回目「売り方が変わる! “非接触” がキーワード。小売業界の改革」, 於: 鹿児島県立短期大学, 2021年11月19日

二部商経学科

宗田 健一 教授

著書

1. 小野正芳編著『27業種別 簿記・会計の処理と表示』, 中央経済社, 2021年11月25日 (初版), 総412頁 (宗田担当: 第26章「旅行業の会計」(単著, pp. 357-369))

学術論文

1. 「「アフターコロナ禍における中小企業支援と税理士業務に関するアンケート調査結果」に基づく中小企業会計の考察」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要 人文・社会科学篇』, 第72号, 2021年12月, pp. 72-103.

資料

「地域特産品である黒酢を用いた給食管理実習における産学連携による栄養教育実践事例」, 共著, 『鹿児島県立短期大学紀要 自然科学編』, 第72号, 2021年12月, pp. 1-20.

学会発表 (口頭)

1. 「遠隔授業時代の会計教育」, 共同, (宗田健一他6名), 日本会計教育学会第13回全国大会スタディー・グループ<中間報告>, 於: 仙台青葉学院短期大学 (現地・オンライン開催), 2021年10月17日
2. 「日本の中小企業会計の基礎概念に関する研究—文化的視座からのアプローチ—」, 共同, (宗田健一他9名), 中小企業会計学会第9回全国大会 課題研究委員会<中間報告>, 於: 愛知学院大学 (オンライン), 2021年9月19日
3. 「新型コロナ支援融資を受けた中小企業のデフォルトリスクに関する一考察—阪神・淡路大震災とコロナ禍における信用保証協会の対応を中心に—」, 共同, (櫛部幸子, 宗田健一), 中小企業会計学会第9回全国大会 自由論題報告, 於: 愛知学院大学 (オンライン), 2021年9月19日
4. 「簿記講義法に関する研究—ティーチング・ティップスの作成—」, 共同, (宗田健一他17名), 日本簿記学会第37回全国大会 簿記教育研究部会報告<最終報告>, 於: 専修大学 (オンライン: オンデマンド報告), 2021年8月28-29日

学会活動

- ・ 日本会計研究学会, 2002年～現在, 会員
- ・ 国際会計研究学会, 2007年～現在, 会員
- ・ 日本簿記学会, 2008年～現在, 会員
—簿記教育研究部会, 2018年8月～2021年8月, 「簿記講義法に関する研究—ティーチング・ティップスの作成—」(部会長)
- ・ 日本会計教育学会, 2009年～現在: 会員
—理事 (ICT担当) (2020年～現在)
—第13回全国大会準備委員会 (委員), 2021年10月16-17日, 仙台青葉学院短期大学: 対面・オンラインの併用
—スタディー・グループ (委員), 「遠隔授業時代の会計教育」, 2020年9月～2022年9月 (予定)
- ・ 中小企業会計学会, 2013年～現在, 会員
—理事 (担当: 渉外), 2021年～現在
—学会誌編集委員会 (委員), 2021年～現在
—幹事 (研究: 学会誌担当), 2015年～2021年
—幹事 (広報: 会報・HP担当), 2015年～2021年
—課題研究委員会 (委員), 「日本の中小企業会計の基礎概念に関する研究—文化的視座からのアプローチ—」, 2019年9月～2022年9月

月（予定）

- ・ 日本経済会計学会，2015年～現在，会員
- ・ 日本管理会計学会，2017年～現在，会員
- ・ 日本財務管理学会，2019年～現在，会員
－討論者，日本財務管理学会第53回秋季全国大会 自由論題（第2会場第2報告），2021年11月6日，釧路公立大学：オンライン

社会還元

1. 講師
鹿児島国際大学サテライトキャンパス「企業経営基礎講座」講師（現在～2022年2月（予定））
2. 講師
大阪経済大学大学院経営情報研究科科目「論文指導」学外講師（2021年6月）

社会活動

1. 鹿児島市新規創業者等育成支援検討委員会委員，2010年4月1日～2021年9月30日（2016年11月から2021年9月は委員長）
2. 龍谷大学校友会鹿児島支部 理事，2017年度～現在

その他－競争的資金（学外）

1. 公益財団法人 牧誠財団研究助成，研究課題名：「老舗中小企業の経営資源承継から見た会計管理実務の理論化」（共同），助成金交付決定番号：研究2020003号（研究助成A），補助事業期間：2020年7月1日～2022年6月30日（予定）
2. 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金），研究課題名：「新型コロナ支援融資を受けた中小企業のデフォルトリスクに関する理論的・実態的分析」（研究分担者），研究種目：令和3年度 基盤研究(C)，課題番号：21K01830，補助事業期間：2021年度～2024年度（予定）

その他－競争的資金（学内）

1. 鹿児島県立短期大学地域研究所，「事業承継を行なう中小企業における管理会計導入要因の分析」（代表者），個人プロジェクト，2020年度～2021年度
2. 鹿児島県立短期大学地域研究所，「新型コロナ支援融資等を受けた鹿児島県内中小企業の調査」（代表者），共同プロジェクト，2021年度～2022年度（予定）
3. 鹿児島県立短期大学地域研究所，「簿記講義法に関する研究」（代表者），研究成果公開（学会報告），2019年度～2021年度

田口 康明 教授

研究ノート

1. 「教育におけるICT活用をめぐる教育政策の現状と課題（2021年9月時点）」，単著，『商経論叢』第72号，鹿児島県立短期大学，2021年10月

社会還元

1. 講師
「2年目になった新型コロナウイルス感染症と学校の「おつきあい」」，伊敷公民館講座，於：鹿児島市立伊敷公民館，2021年11月17日

野村 俊郎 教授

学術論文

1. 「トヨタ生産方式の基盤「職場力」と知識変換～3本柱活動の概要と分析方法～(下)」，単著，『鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報』，第52号，2021年3月，pp. 43-51.
2. 「2035年内燃機関車販売禁止・ZEV化を巡る競争と自動運転を巡る競争～資本主義のままで移動の未来を切り拓けるか～(その1)」，単著，『商経論叢』，第72号，2021年10月，pp. 19-24.
3. 「トヨタ生産方式の基盤「職場力」と知識変換～3本柱活動の概要と分析方法～(下の2)」，単著，鹿児島県立短期大学紀要 人文・社会科学篇』，第72号，2021年12月，pp. 31-40.

社会還元

1. 講師
「人工知能AIで未来はどう変わるか」，出張講義，於：明桜館高校，2021年7月30日
2. 講師
「系統理解のガイダンス経済・経営」，進学ガイダンス，於：鹿屋女子高，2021年7月12日

社会活動

1. かがしまフォーラム事務局長

疋田 京子 教授

学会活動

- ・ 日本法哲学会
- ・ ジェンダー法学会
- ・ アジア法学会
- ・ アジア法学会理事

社会還元

1. 講師
「ジェンダーとLGBTQ」・主催：DV被害者支援の会アミーチ主催，於：鹿屋市市民交流センター2階 情報研修室（リナシティかのや），2021年2月20日
2. 新聞コメント

「学ぼうSDGs@かごしま」5月31日（月）南日本新聞「南日本こども新聞オセモコ欄」

3. その他

南日本新聞へのコメント3件

社会活動

- 2014年12月6日～現在、鹿児島県事業認定審議会委員
- 2018年～現在 社会福祉法人明澈会・南さつま子どもの家施設評価委員

山本 敬生 准教授

学術論文

- 「行政法における信義則の再検証」、単著、『商経論叢』、第72号、2021年10月、pp. 25-47.

学会活動

- 日本公法学会、2001年10月～現在
- 行政判例研究会、2001年10月～現在

社会還元

- 講師
「憲法と条例」、令和3年度伊敷公民館講座「いきいきシニア大学」、於：伊敷公民館、2021年10月20日
- 講師
「自治基本条例とまちづくり」、いちき串木野市「共生・協働のまちづくり講演会」、於：いちき串木野市役所串木野庁舎地下大会議室、2021年11月25日
- 講師
「政策法務」、財団法人鹿児島県市町村振興協会鹿児島県市町村研修センター・令和3年度特別研修、於：鹿児島県自治研修センター、2021年12月15日～16日

社会活動

- 2005年3月～現在、鹿児島県地方自治研究所研究理事
- 2013年4月～現在、同研究所自治体創造プロジェクト主査
- 2017年11月～現在、自治研かごしま編集長
- 2013年5月～現在、日置市情報公開審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、日置市個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、曾於市情報公開審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、曾於市個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、いちき串木野市情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）

- 2013年4月～現在、志布志市情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、伊佐市情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、十島村情報公開審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、十島村個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、さつま町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、長島町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、湧水町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、大崎町情報公開審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、大崎町個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、東串良町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、錦江町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、南大隅町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、肝付町情報公開審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、肝付町個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、中種子町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、南種子町情報公開審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、南種子町個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、宇検村情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、龍郷町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、喜界町情報公開審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、喜界町個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、知名町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、与論町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、鹿児島県市町村総合事務組合情報公開審査会委員（会長）
- 2013年4月～現在、鹿児島県市町村総合事務

- 組合個人情報保護審査会委員（会長）
34. 2013年4月～現在，いちき串木野市・日置市衛生処理組合情報公開審査会委員（会長）
 35. 2013年4月～現在，いちき串木野市・日置市衛生処理組合個人情報保護審査会委員（会長）
 36. 2013年4月～現在，指宿南九州消防組合情報公開審査会委員（会長）
 37. 2013年4月～現在，指宿南九州消防組合個人情報保護審査会委員（会長）
 38. 2013年4月～現在，沖永良部与論地区広域事務組合情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
 39. 2013年4月～現在，曾於地区介護保険組合情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
 40. 2013年4月～現在，鹿児島県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
 41. 2013年4月～現在，徳之島町情報公開審査会委員（会長）
 42. 2013年4月～現在，徳之島町個人情報保護審査会委員（会長）
 43. 2013年4月～現在，屋久島町情報公開審査会委員（会長）
 44. 2013年4月～現在，屋久島町個人情報保護審査会委員（会長）
 45. 2013年4月～現在，大和村公文書等開示審査会委員（会長）
 46. 2013年4月～現在，大和村個人情報保護審査会委員（会長）
 47. 2013年4月～現在，和泊町情報公開審査会委員（会長）
 48. 2013年4月～現在，和泊町個人情報保護審査会委員（会長）
 49. 2015年3月～現在，いちき串木野市自治基本条例推進審議会委員
 50. 2015年6月～現在，鹿児島県後期高齢者医療広域連合特定個人情報保護評価審査会委員
 51. 2017年4月～現在，鹿児島県市町村総合事務組合退職手当審査会委員
 52. 2017年2月～現在，霧島市情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
 53. 2017年2月～現在，霧島市個人情報保護審議会委員（会長）
 54. 2017年2月～現在，霧島市行政不服審査会委員（会長）
 55. 2017年4月～現在，始良市公平委員会（委員長）
 56. 2017年5月～現在，始良市行政不服審査会委

- 員（会長）
57. 2018年12月～現在，鹿児島県全国がん登録情報有識者会議委員

その他

1. 南日本新聞コメント
7月15日，23日，12月15日
2. 南日本新聞オセモコ解説
10月22日
3. MBCニュース出演
10月26日

『KUROSHIO』第47卷

2022年3月31日 発行

編集・発行

鹿児島県立短期大学地域研究所
〒890-0005

鹿児島市下伊敷一丁目52番1号

TEL: 099-220-1111

FAX: 099-803-4473

印刷所 青葉印刷株式会社

〒890-0045

鹿児島市武1丁目11番17号

TEL: 099-251-1821

FAX: 099-251-2144

KUROSHIO

